

事務事業 No./名 称	□サービス部門 総務-28		公共用地先行取得事業						
主管課	管財課	関連課	財政課・経営企画課・鎌倉深沢地域整備課						
分野名	行財政運営								
目標 (目標値)	安全で快適な生活が送れるまち 鎌倉市土地開発公社が先行取得した用地の取得 国鉄清算事業団用地の先行取得に要した市債の元利償還								
人口等の データ	データ区分	22年度	21年度	20年度	備 考 ・各年4月1日 (住民基本台帳)				
	人 口	177,161人	176,669人	176,484人					
	世 帯 数	78,812世帯	78,131世帯	77,430世帯					
	事業の対象者数								
運営資源 状 況	決算値(千円)	3,134,110	344,542	478,809					
	(国・県)								
	(負担金等)	2,912,900							
	(一般財源)	221,210	344,542	478,809					
	人員配置数	0.6	0.1	0.1					
	人件費(千円)	5,122	895	909					
	協働の パートナー								
事務事業 運営経費	総事業費(千円)	3,139,232	345,437	479,718					
	市民1人当 りの経費(円)	177,720	1,955	2,718					
	対象者1人 当りの経費(円)								
ベンチマーク (県内外自治体 や民間団体と の比較値)	団体名								
指 標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)		
		目標値	—	—	—	—	—		
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退		実績値	—	—					

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。
小事業名	H22決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性 A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止
用地取得事業	2,913,059千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	⇒ □A ■B □C □D □E	
	事業の概要			
元金償還金	218,150千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	⇒ □A ■B □C □D □E	
	事業の概要			
支払利子	2,902千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	⇒ □A ■B □C □D □E	
	事業の概要			
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒ □A □B □C □D □E	
	事業の概要			
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒ □A □B □C □D □E	
	事業の概要			
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒ □A □B □C □D □E	
	事業の概要			

中事業の評価結果

事業診断(課長評価)				
H22年度の課題				
課題解決のための取組				
未解決の課題				
今後の方針	平成32年度完済に向けて、元金を確実に償還していく。			
今後の方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止	⇒ B	※ □事業完了	課長名 管財課長 鶴見 俊之

個別事業の概要

(単位:千円)

小事業名	ザイムスコード	個別事業名	22年度予算	22年度決算値	個別事業の評価結果	
用地取得事業	844	用地取得事業	2,913,060	2,913,059	■適切	□見直し余地あり
元金償還金	939	元金償還金	218,150	218,150	■適切	□見直し余地あり
支払利子	845	支払利子	2,990	2,902	■適切	□見直し余地あり
					□適切	□見直し余地あり
					□適切	□見直し余地あり
					□適切	□見直し余地あり